

vol. 35

サポセンニュースレター 2024年 杏号



p2-3 **特集** **こどもは、みらい。2024**
みらいフェスタ

p4_【サポセンの事業報告】

- まつど地域活躍塾第7期(2023年度)
- 受け入れ力アップ講座

p5_【スタッフコラム】 箸よく盤水を回す

p6-7_【チャレンジャー】

地域の事例紹介コーナー 小金下町町会

p8_ みらいフェスタ 実行委員会企画

p8_ サポセン新規届出団体



サポセン
メルマガ登録はこちら！
<https://bit.ly/3gf0dh6>



**まつど市民活動
サポートセンター**

<http://www.matsudo-sc.com/>

3/23 SAT 土

特集 こどもは、みらい。2024 みらいフェスタ

2年連続の雨天によりサポートセンターにて開催

数日前から一日中大雨との予報でしたので、前日午後には出展団体に連絡、また市民の皆さん向けにも会場変更の告知をSNSやサポセンのホームページなどで行いました。その成果もあるのでしょうか、昨年よりも出展数も来場者も多く、サポセンの廊下も会場として利用したお部屋も混雑してしまうほど。ですがボランティアの皆さんの誘導や声掛けのおかげで大きな事故もなく、大盛況で終了することが出来ました！

みらいフェスタとは…?
市民活動を、市民の皆さんにもっと知ってもらおう！という思いから始まり、現在は「こどもは、みらい。」をキャッチフレーズに、地元事業者さんなどにもご協力を頂きながら、様々な企画やブースが出展され子ども中心に皆さんが楽しめるフェスタです。

- 場所** 松戸中央公園→まつど市民活動サポートセンター ※大雨のため会場変更
- 出展** 35団体(企業含む) ※出展申込み: 49団体(企業含む) 雨天・会場変更により14団体が出展見合わせ
- 来場者数** 約1,200名 【こどものまち】お仕事体験 102名

ものづくり



キャンディレイ作りや さかなつり

NPO法人子どもまつど

復興への思いを黄色いハンカチに描きました



東日本大震災復興支援 松戸・東北交流プロジェクト



缶バッチ作り

ピクシーファミリー



エコトンボの会

エコトンボの紹介だけでなく 輪投げコーナーも



コースターに 墨絵を描きました

墨彩会



一般社団法人 路上博物館

3Dプリンターで作った骨の標本に興味津々のお子さん



チームごちゃまぜ



絵本とグッズ販売(なんと、その絵本の作家さんもいらしてその場でサイン!)

体験する

本格的な占いも無料で受けられて大盛況!



NPO法人 岳易館・有育会



オリジナルのいいかえるた体験も大人気

街のコーティング屋さん



りょうぶんどうおはなし隊と絵本作家の仲間たち

ママ達による 手作り品の販売



可愛らしい 手作り布おもちゃ販売

子育て+プラスゆとりにっこり



NPO法人 MamaCan

楽しむ



初めてのネイルかな? 嬉しそうでした

福祉ネイル MTD



段ボールで何を作っているのかな?

探求型スクール C-Quest



選ぶまなざしは真剣!

駄菓子屋カフェくるくる



千キンこっぺはボリューム満点



大にぎわい!

多目的ホール



すこっぷくんも涙(?)の混雑

1階廊下



フランクフルトの他、焼き魚や唐揚げなどもありました

屋外の飲食テントエリア



今年はこちら会場として使用しました

大会議室



迫力の太鼓!

向日葵太鼓

ステージの合間にチーバくんと遊ぶ子どもたち

ごみの分別紙芝居

まつどゼロウェイスト

絵本作家さんによるアコーディオンと腹話術



りょうぶんどうおはなし隊と絵本作家の仲間たち



子ども達お姉さん達が自ら選んだ曲でダンス!

marble choco

※特集続きは裏面(p8)へ!

まつど地域活躍塾 第7期 (2023年度)

松戸をより暮らしやすく魅力的な街にするために、地域で何かに取り組みたいと考えている方向けに行っている、まつど地域活躍塾。2023年6月から2024年2月まで参加した第7期の皆さんは、最終的に34名が修了されました。年齢層としては50・60代が多いですが、20代・70代の方まで年代も興味や関心の分野も幅広い方が集まっています。

コロナ禍でしばらくオンラインによる講義の配信を行っていましたが、今回から会場での開催に戻し、毎回活気あふれる様子となりました。塾を通じて、自分合ったボランティア先を見つけたり、自分で団体を立ち上げたりする方もおり、一歩踏み出すきっかけとなっていたようです。写真と共に講座や体験の様子をレポートします。



マッチング



修了式



ワークショップ



塾では講義を聞くだけでなく、同期の参加者同士でテーマについて深掘りしたり、自分自身が活動してみたいことを対話するワークショップを行っています。

講座の様子



松戸でアフガニスタンのドライフルーツやサフランを販売するお店を営んでいるパブリさんによる、外国にルーツを持つ方のお話。



実地体験

魅力の1つとなっている現場での実地体験。約20団体のお話を聞き、自分が関心のあるところで体験できます。写真は町会・自治会のお祭りやフードバンクでのお手伝い、学習支援の様子。

多文化



まつど地域活躍塾は毎年5〜6月頃に塾生の募集を行っています。サポセンでは随時地域の活動についてのご相談を受け付けています。ご自身の経験やスキルを活かして、より良い街づくりを携わってみませんか？

箸よく盤水を回す



まつど市民活動サポートセンター
コーディネーター 井坂千穂

タイトルは、最近、地域で大変お世話になっている人生の大先輩から教えていただいた言葉です。意味は、小さな努力も続けると、大きな力になる。決してあきらめてはいけない、という訓えだそう。その方いわく、継続は、最低2年しないと周りの環境は変わってこない。まずは2年を目標に続けること、環境が変わってくるので、また続けるのが容易になるようだ、ということでした。

長年、市民活動をしている皆さんには思い当たることがあるのではないのでしょうか？

子どもにとって、安心できる地域にしたい、知っている人がたくさんいる地域にしたいと思えば、小学校のPTAで「こども110番の家」を広げる活動を始めて3年。「きたまつどごみゼロくらぶ」という団体を立ち上げて、地域でゴミ拾いの活動を始めて1年です。2年。駄菓子屋ひろはの活動を始めて1年です。今思うと、自分の住んでいる地域の中で、まさに箸をまわしているような3年間でした。

本当に、最初は空回りも空振りもたくさんありました。楽しいことばかりではないですし、よい反

ばかりでもない。「あの人に近づくと、巻き込まれるに違いない」とばかりに遠巻きに見る人もいます(笑)。でもその間、たくさんの方に出会い、挨拶ができる人が増え、一緒に「こんなことやりたいね!」と語り合える仲間がいる、私にとってはそんな地域になってきました。

そんな中、この地域で、とある町会で主催していたお祭りが、高齢化でいよいよ開催できない、とお聞きしたのが4月末。いてもたってもいられず、この数年間で出会ってきた方たちと一緒に実行委員会を立ち上げて、秋祭りを開催することになりました。

呼びかけに、仲間が仲間を呼び、新しい人も増えてきて、まさに大きな渦になりつつあります。どんな方向に進んでいくのか? わからないうえ、流れに身を任せているのですが、「ああ! 私はこのために、この3年間、箸をまわしてきたのかも!」と思えば、楽しんでいます。

「ずっと続けなければいけませんよ」とはもちろん言い切れませんが、いま活動をして手ごたえがないと感じている人に、この言葉が届くといいなと思います。



きたまつどごみゼロくらぶ
2周年イベントでのひとコマ。
リヤカー組立体験をしました。



3回目

NPO法人ハンズオン埼玉副代表理事の西川正さんをゲストに、幅広い事例を参考に「あそび」の視点から、多様に触れるトークフォークダンスや七輪ワークショップで持ち寄りの可能性を体験しました。

4回目(最終回)

今後の運営に向けたプレゼンテーションを実施。どの団体もこれまでの運営方法をさらに広げていく工夫や視点を団体同士で共有することができました。

初回(オープン講座)

ソーシャルワーカーの根本真紀さんを迎え、地域や社会に対して向ける自身の立場は見直し、社会をつくる一員として寛容性を広げるために自分自身の足りなさを認め、「あそび」をつくることの大切さを講じていただきました。(その後も根本さんには総合ファシリテーターとして参加いただきました)

2回目

NPO法人さんま代表理事石川静枝さん、NPO法人ウィズ理事長長本歩さんをゲストに、団体を運営する中で人との関わりの中での苦労や工夫等を取り上げ、関わる人への選択肢ある役割をどうコーディネートするか、やってみようという動機や失敗を許容できるような経験の必要性など議論を深めました。



受け入れカアップ講座2023

人それぞれの力を引き出す 寛容性のある コミュニティづくりのコツ

NPO・市民活動の組織基盤強化に向けた講座を2023年度よりリニューアルしました。その名も「受け入れカアップ講座」。さまざまな背景や特性がある方もボランティアや活動に参加できるよう、関わり方や体制について考えることで、団体自体の受け入れ力を向上させること(=寛容性のあるコミュニティ)を目指した講座です。

2023年11月の初回オープン講座を皮切りに、全4回の連続講座として企画し、5団体が参加しました。

※「盤水」とは盤(丸い皿、たらい)のなかの水のこと。最初、箸一本で盤水を回しても箸しか回りません。ところが、その箸を根気よく熱心に回し続けていると、周囲の水が少しずつ回るようになり、さらにあきらめずに回し続けると、一段と輪が広がります。そして最後には、盤水全部が大きな渦(うず)になって回るようになります。





小金下町町会

小金で有名な東漸寺の近く、約240世帯で構成されている町会。



企画した水鉄砲大会は大人も本気に！



秀輔さん制作のイベントポスター

「町会・自治会に若い世代が入ってこない、役員のみならず手がいなくて困っている」そんな悩みを町会長さんや地域の方から聞くことが増えてきました。地域活動をリードしてきた団塊の世代の方々が75歳前後となってきた現在、次世代の育成はどの地域でも必須の課題となっているのではないのでしょうか？ そんな中、高校生が役員となり地域のイベントを企画したという小金下町町会の事例について、町会長と親子で役員を務めているお2人にお話を伺ってきました。



上野町会長

Q 地域のことや町会について教えてください

このあたりは歴史のある地域で、中には何世代にもわたって暮らしてきた人たちと、新しく家が建って移り住んできた住民も増えてきています。昔から知っていらっしゃる近所さんは今も屋号で呼び合うこともあって、私も初めは覚えるのが大変でした。



鈴木秀輔さん

Q どういうきっかけで町会に入ったんですか？

父親が役員をやっていて、子どもの頃から地域のイベントに参加したり、夜回りに参加したりしていました。なので元々地域のことには興味を持っていました。高校生活になったタイミングで役員に誘ってもらって入ることにしました。役員になってからは広報部を担当して、いろんなポスターを作っています。

Q 実際に参加してみてもいいですか？

上の年代の人が多いイメージを持っていて、役員会に初めて参加したら実際にそうでした(笑)。でも、とてもウェルカムな雰囲気を受け入れてくれて居心地は良かったです。最初の頃は話を聞くだけでしたが、2年目くらいから自分でも意見を言えるようになりました。

Q 昨年企画・実施したイベントについて教えてください

町会長から「何か自分で考えてやってみたら？」と言われて、元々町会で行っていた夏まつりの代わりに、世代を超えて楽しめることをやりたいと考えて水鉄砲大会を企画しました。当日は5人×7チームが参加してくれて、トーナメント形式で勝負して優勝者には景品を用意しました。

Q やってみて工夫したことや印象的だったことありますか？

家族で参加した人が多くて、子どもよりも大人が本気になっていたのが面白かったです。子どもも大人も一緒に楽しめたのは良かったかと思えます。勝敗は頭につけた金魚すくい用のポイを狙うんですが、普通に売っているものだと簡単に破れてしまっ。全国大会で使われているものを仕入れて、事前の準備でシミュレーションして工夫しました。



これからの町会・自治会運営で大切だと思うことについて3人に聞いてみました



鈴木雄輔さん

Q 若い世代が参加しやすくなるポイントはどのあたりだと思いますか？

自分も40代で、息子を除くと役員の中では一番若い方ではあるんですが(笑)今回の企画の様子を見ていて、やはり町会長が思い切って彼に任せてくれたというのが大きかったんじゃないかなと感じます。任せるだけではなく、しっかりと予算を確保してくれたり、実施に至るまでには他の役員も含めて後方でサポートしてくれたりというのも若手育成のポイントだと思います。



上野町会長

Q 町会・自治会の役割についてどう考えていますか？

まずはお互いのことを知る上での地域のつながりづくりが大事です。能登の震災でもたくさん報道されましたが、とり近所のことを全く知らないのでは安否確認もできない。それこそ何世代もかかって作っていく文化というか、風通しの良さが暮らしやすい地域につながっていくのではないかと考えています。時間はかかりますが、積み重ねですね。



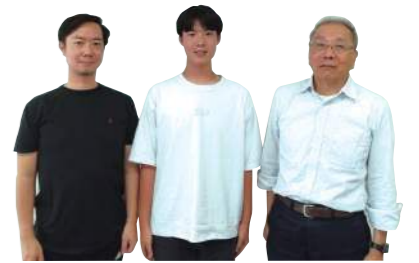
鈴木雄輔さん

私の世代だとしても物理的、時間的に忙しいということがあって、何事にもメリット・デメリットを考えてしまう人が多いと思います。町会・自治会との関わりでも同じで、参加することの意味って何だろうか。町会費を払ってそれで終わりではなく、存在意義を知ってもらうことが大事です。今回のように目に見える活動が充実することで安心安全な地域になっていくのではないのでしょうか。



鈴木秀輔さん

自分も参加するようになって、近所で話せる人が増えたのが良かったです。これからの町会については、かた苦しいイメージではなく、明るい雰囲気や友達を誘ったり、家族で参加できるようなことが増えるといいなと思っています。



鈴木雄輔さん 鈴木秀輔さん(高校生) 上野久さん(町会長)

まとめ

高校生が活躍する背景には、それを下支えする大人の姿や地道な地域の関係づくりが見えた事例でした。ソーシャル・キャピタル(直訳すると社会関係資本)という言葉があるのですが、人々の関係性やつながりを資源としてとらえる概念のことで、地域づくりの文脈でよく取り上げられます。ソーシャル・キャピタルが高い地域ほど、犯罪率が低かったり、子どもの学力も高いという研究もあるのですが、今回の取材で町会長が話されていた「風通しの良さ」がまさにつながると感じました。



スタンプラリー

子どもたちに色々なブースで遊んだり体験したりしてもらえるようにスタンプラリーを開催。出展団体のカテゴリー「体験する」「楽しむ」「学ぶ」「ものづくり」に参加するとそれぞれスタンプがもらえる仕掛けでした。その4種類のスタンプを貰ってきてくれたみんなに、チーバくんグッズをプレゼント♪さらにブースを回り3つスタンプを集めた子どもたちはガラガラに挑戦!あたりが出たら景品2つ、はずれでも景品1つをプレゼントしました。

ガラガラを回すときはジドジドキ

みらい券2枚付き!



本部のスタンプラリー受付&ガラガラ



裏には子どもの権利条約についてのメッセージも載せました♪

こどものまち

たくさん子どもたちが、「はたらく」ブースでお仕事をして、お給料として「みらい券」をもらい、「つかう」ブースでお買い物や遊んだりすることが出来る「こどものまち」。会場のほぼ全てのブースがこの企画に協力し、いたるところで子どもたちの活き活きとした姿が見られました。



「こどものまち」のおしごとセンターここでお仕事を選びます



NPO 法人さんま

お給料でみらい通貨を渡しているときは子ども(付き添いの)大人もうれしそうで、特に子どものわくわく感が伝わってきました♪(出展団体 S)

子どもの意見、子どものやっていることを尊重して見守る保護者がたくさんいらしたことは嬉しかった(出展団体 T)

NEW REGISTRATION

サポセン 新規届出団体 を紹介します!

2024年3月16日～6月30日 (届出順・敬称略)

- 青春音楽団 ■ちゃ組 ■ザ・昭和懐メラーズ ■みんなで創ろう”お楽しみ文化活動”企画会議
- あさま台ダンス同好会 ■支援者つながるカフェ ■障がい者犯罪被害者支援ボランティア団体
- 松戸市で若者が語り部を行う会 Association of Youth Storytelling in Matsudo
- あんどでおむすびカフェ ■Gift of Banana ■Juidy's ■二十世紀が丘 明正会 ■矢切ダンスサークル
- 新松戸北交通事故ゼロ推進隊 ■handicraft circle bijou ■大橋みどり子ども会
- 子ども料理教室 まじかるれっすん上矢切教室 ■園芸まちづくりA4班 ■ひだまりさんさんROOM
- 山波言太郎総合文化財団 ■陶芸木曜会 ■みんなで市庁舎現地建て替えを考える市民ネット
- 五香西町会 ■FUN KIDS girls ■松南寿会 ■ABC PLANNING CLUB

サポセンニュースレター



第35号(2024年杏号)

発行日: 2024年6月30日(※年4回発行)
発行元: まつど市民活動サポートセンター
(指定管理者 NPO法人まつど NPO協議会)

「ぼっく」設置協力店

- Sampo Café (八ヶ崎 7-31-5)
- 松戸観光案内所(本町 7-3)
- やしま商店(本町 6-3)
- 隠居屋 IN kyo-Ya (南花島中町196)
- はれの日サロン(常盤平3-11-1 西友常盤平店5階)
- いわぼんホール(岩瀬38)
- 紙敷あんど(紙敷1135)
- さんさん カフェ(仲井町 2-6-4)

- 本屋 BREAD&ROSES (常盤平 4-8-15 ウエキビル 1F)
- omusubi 不動産 (総台 1-21-1 あかぎハイツ 112)
- Coworking Space Flat Café & Bar (新松戸 3-289)
- 昭和セレモニー松戸・矢切・北小金儀式殿 (千駄堀620-1・栗山19-4・殿平賀75-2)
- 松戸スタートアップオフィス (松戸 1307-1 松戸ビル 13F)
- まちかどアトリエ Neiro (松戸 1117 ピラ松濤 2F C号室)

「ぼっく」の配架にご協力いただけるお店・施設を募集します!

ニュースレター「ぼっく」を、お店や施設に配架していただけませんか? ご協力いただいたお店・施設は、この欄で名称・所在地等をご紹介します。もちろん、無料でお届けし、部数もご要望に応じます。詳しくは、まつど市民活動サポートセンターまで、お電話・メール等でお気軽にお問合せください。

「ぼっく」の主な設置場所

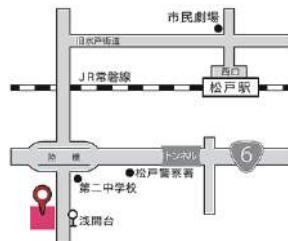
松戸市内の図書館、市民センター、公民館など各種公共施設の他、松戸駅などに設置しています。

まつど市民活動 サポートセンター

〒271-0094 松戸市上矢切 299-1(総合福祉会館内)
TEL: 047-365-5522 FAX: 047-365-5636
E-mail: hai_saposen@matsudo-sc.com
URL: <http://www.matsudo-sc.com/>
facebook: <https://www.facebook.com/matsudo.sc>

開館時間
月～土: 9時～21時
日: 9時～17時

休館日
第1・第3水曜、
年末年始
(12/29～1/3)



編集 後記

日本海側でも見えたというオーロラ。みたかった～!(ひ)